

第三期県立高等学校再編計画（案）の概要

第三期県立高等学校再編基本計画（令和6年度～令和17年度の12か年）
第三期県立高等学校再編前期実行計画（令和6年度～令和11年度の6か年）

令和5（2023）年7月 栃木県教育委員会

第三期県立高等学校再編基本計画（案）

- 栃木県教育委員会では、高校教育をめぐる現状と課題を踏まえ、魅力と活力ある県立高校づくりをより一層推進するため、「第三期県立高等学校再編基本計画（案）」を策定しました。
- 本計画は、国の教育改革の動向や十数年先の中学校卒業生数の見込みなどを見据え、中長期的な視点に立って、今後の県立高校再編の基本的な考え方を示したものです。



高校教育をめぐる現状と課題

高校教育に対する社会の要請

- 主体的に社会に参画し、多様な人々と協働しながら、持続可能な社会づくりに貢献できる人材を育成すること。
- 地元とちぎへの郷土愛を醸成し、地域社会の持続的な発展を担う人材を育成すること。
- 幅広い分野の知識等を有し、異分野・異業種との連携・協働により新たな価値を創出できる人材を育成すること。
- ▶個別最適な学びの充実や、主体的・協働的に探究する学びの推進を図ることが必要です。
- ▶外部機関との連携・協働体制やICT環境等などの充実した教育環境を整備することが重要です。

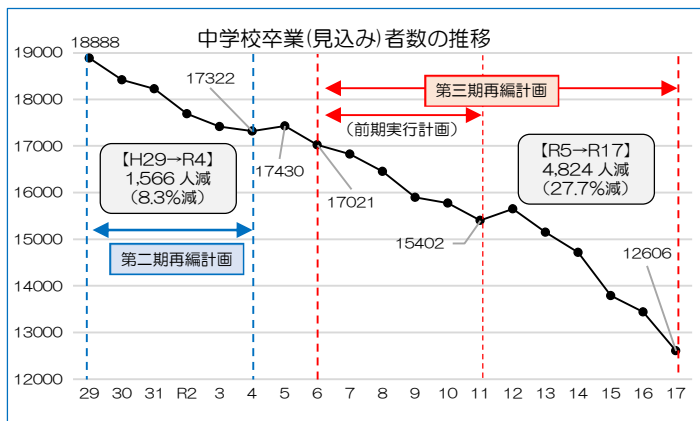
県立高校の現状と課題

(1) 学習ニーズの多様化

- 高校等への進学率は99%超
- 生徒の目的意識や興味・関心、進路希望、能力・適性が多様化
- 障害のある生徒や外国語を母語とする生徒、不登校経験者や高校中退者なども在籍
- ▶生徒の多様な期待に対応しながら、きめ細かな教育活動を展開することや、社会的・職業的自立のための支援体制の充実を図るなどして、特色化・魅力化を一層推進することが求められています。

(2) 生徒数の減少

- 令和17（2035）年の中卒見込み者数は12,600人程度（令和5年比28%減）
- 学校数を維持して学級減のみで対応すると、各校の小規模化が進行
- 小規模化すると、生徒同士の切磋琢磨の機会の減少とともに、適正な教員数の配置や多様なニーズに応じた教育課程の編成が困難になるなど、教育の質が低下するおそれ
- ▶高校教育を受ける機会を確保しながら、適正な学校規模の維持に努める必要があります。



魅力ある県立高校づくり

1 各学校の特色化の推進

教育内容の充実

- 学ぶ意欲や目的意識を高め、個性や能力の一層の伸長を図るため、各校の特色化を推進します。
- スクール・ミッションを踏まえてスクール・ポリシーを定め、特色化・魅力化に努めます。
- 主体的・協働的に探究する学びやSTEAM教育等の教科等横断的な学びの充実を図ります。
- GIGAスクール端末環境等を生かしながら、ICTを活用した学びを展開します。
- 就業体験等の充実や地域の産業界との連携・協働を推進します。
- 基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図るための学び直しの指導の充実を図ります。

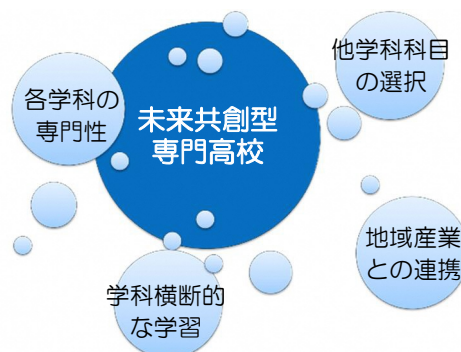
教育環境の整備

- 特別な配慮を必要とする生徒のため、教育相談や社会的自立のための支援体制を整備します。
- 定時制では、柔軟な学習時間帯の設定や学校外学修の成果の弾力的な単位認定等に努めます。
- 段階的にコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を導入します。

2 特色ある学校の設置

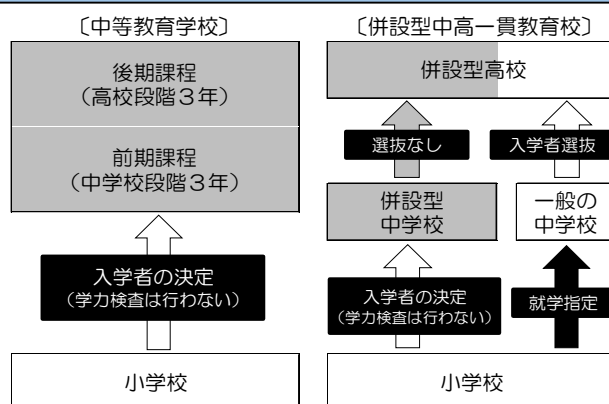
(1) 未来共創型専門高校（仮称） —学科横断的な学習を推進する総合選択制専門高校—

- 各学科の専門分野の知識・技術はもとより、幅広い分野の知識を持つ柔軟な発想のできる人材を育成します。
- 各学科の生徒が連携・協働して探究的に学べる教育課程とするなど、学科横断的な学習を推進します。
- 地域産業と連携した実践的な職業教育など、実社会や世界との関わりを意識した教育活動を展開します。
- 他の専門学科の科目や大学等進学を目指した発展的な普通系科目を選択することを可能とします。
- ◆職業系専門高校の統合により、複数の職業系専門学科を併置した未来共創型専門高校に再編します。



(2) 中高一貫教育校 —6年間の計画的・継続的な教育活動を展開—

- 創造力やリーダーシップに富む豊かな人間性や自ら学ぶ力を育成します。
- 中等教育の多様化を図り、学校選択肢を拡充します。
- ◆地域バランス等を考慮し、中高一貫教育校を設置拡充します。
- ◆学校や地域の実情等を踏まえ、一部の併設型中高一貫教育校を中等教育学校へ再編します。
- ◆全ての中高一貫教育校に進学に重点を置く単位制を導入します。
- ◆探究的な学びをより一層推進するため教育課程を工夫します。



(3) 単位制高校 —興味・関心や進路希望等に応じた科目を選択し学習—

- 興味・関心や進路希望等に合わせた多様な選択科目を開設し、個に応じた教育活動を展開します。
- 学習ニーズに応じた教科・科目の開設や学習習熟度別少人数授業の充実など、特色ある教育課程を編成します。
- 目的意識を明確化し、適切に学習計画を立てられるよう、ガイダンス機能の充実を図ります。
- ◆大学進学を目指す生徒が多い高校に導入し、応用力や実践力、探究心を高める科目などを開設します。
- ◆3学級特例校に導入し、職業系専門科目や地域課題を探究する科目などを開設します。

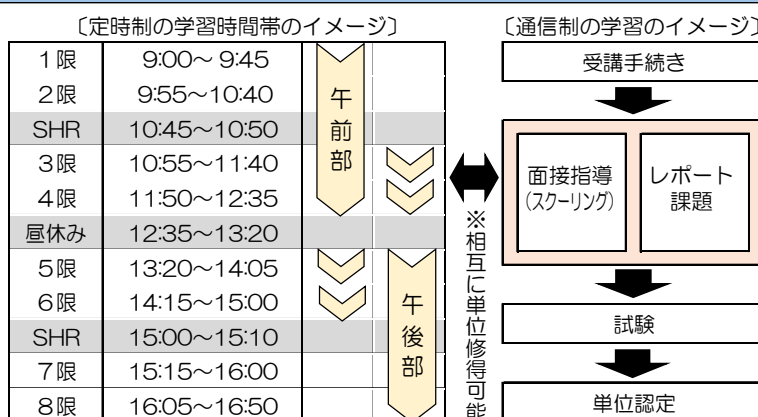
〔単位制の教育課程イメージ（必修科目と選択科目の割合）〕

1年次	必修科目を中心に学習（数学・英語等で学習習熟度別少人数授業を充実）	
2年次	必修科目	選択科目
3年次	必修科目	選択科目

※学年制の高校よりも選択科目の割合が大きくなります。

(4) フレックス・ハイスクール —単位制による定時制・通信制の独立校—

- 設置学科は普通科とします。
- 学習習熟度に応じた科目や資格取得を目指した専門科目など多様な科目を開設します。
- 定時制では、午前の部、午後の部など複数の部を設置します。
- 他の部、他の課程の単位を併せて履修することで3年での卒業も可能とします。
- ◆県央地域、県北地域の通学の利便性がよい場所に設置拡充します。





1 全日制高校の規模と配置の適正化

(1) 規模の適正化

- 1学級40人換算で1学年4学級から8学級を適正規模とします。
- 大学進学を目指す生徒が多い普通科高校や産業教育の中核を担う高校は、ある程度大きな学校規模の確保に努めます。

(2) 学校の統合等

- 各地区の生徒の減少率や、各学校の現状、今後の見通しなどを勘案し、全ての地区において、統合等を行います。
- 適正規模の維持が困難又は将来困難となる見込みの学校や、統合により教育内容の充実と活性化が期待できる学校は、統合等を検討します。

地 区	全日制 高校数 (R5)	中卒者減少率 (R5→R17)	学級減の 見込み
全県	58校	約28%	81学級程度
宇都宮地区	10校	約20%	13学級程度
上野地区	7校	約37%	11学級程度
下野地区	14校	約26%	17学級程度
安足地区	7校	約35%	10学級程度
芳賀地区	6校	約28%	9学級程度
那須地区	8校	約31%	12学級程度
塩谷・南那須地区	6校	約34%	9学級程度

(3) 規模の特例（特例校）

- 県の周縁部に位置する一部の学校は、特例として、1学年3学級又は2学級で生徒を募集します。
- 地域と一体となって魅力ある学校づくりに取り組みます。
- その後も募集定員分の入学者が見込めない場合には、次のとおりとします。

3学級特例校	地元地域とも十分に協議し、統合などを行い募集を停止するか、2学級特例校とします。
2学級特例校	2学級での募集開始から3年目以降、入学者が2年連続して募集定員の3分の2未満となった場合は、地元地域とも十分に協議し、原則として、統合などを行い募集を停止します。

(4) 男女別学校の共学化

- 男女共同参画の促進や学校選択肢拡充の観点などを踏まえ、共学化を推進します。
- ◆小規模化が見込まれる別学校は、統合し共学化します。
- ◆県民世論の動向や社会情勢の把握に努め、共学化の推進についての検討を進めます。

(5) 学科の構成と配置の適正化

- 普通系学科と職業系専門学科の割合は、7：3を概ね維持します。
- 各職業系専門学科の割合も、現状を概ね維持します。
- 閉科を伴う学級減の際は、学科を統合してコース制を導入するなど、できるだけ学びの機会を確保します。

学 科		募集定員に占める割合や学級減の対応
普通系 学科	普通科	中学生の希望状況や各地区の生徒数の減少に応じて学級減
	普通系専門学科	生徒の志望動機や成果などを見極めながら、今後の在り方を検討
	総合学科	各地区において選択肢となるよう学校数を維持
職業系 専門学科	農業科、工業科、商業科、 家庭科、福祉科	現在の募集定員の割合を概ね維持
	水産科	現在の募集定員を維持

2 定時制・通信制高校の規模と配置の適正化

定時制 高校

- 夜間定時制から昼間定時制への再編や、専門学科から普通科への再編を検討します。
- 専用教室や校舎などを確保し、学習環境を整えます。
- ◆一部の定時制については、フレックス・ハイスクールへ統合します。
- ◆全日制と併置する定時制については、専用の校舎の確保が可能な場合は、昼間定時制に再編します。

通信制 高校

- スクーリングに通学しやすい環境となるよう、学校の配置を見直します。
- ◆全日制と併置した通信制については、フレックス・ハイスクールに移設します。

第三期県立高等学校再編計画の全文は、栃木県教育委員会のホームページで御覧いただけます。
<https://www.pref.tochigi.lg.jp/m01/education/kyouikuzenpan/keikaku/koukousaihen-top.html>

問合せ先 栃木県教育委員会事務局 教育政策課 高校再編推進担当
 〒320-8501 宇都宮市埴田 1-1-20 TEL 028-623-3364 FAX 028-623-3356

第三期県立高等学校再編前期実行計画（案）

1 全日制高校の再編

(1) 中等教育学校への再編

対象校	年度	設置内容（1学年の定員）	再編の概要
宇都宮東高校 と附属中学校	R9	前期課程 140 人 後期課程・普通科 140 人	・R8 進学に重点を置く単位制を高校に導入 ・中学校募集停止（・R12 高校募集停止）
小山高校	R10	前期課程 140 人 後期課程・普通科 140 人	（・R13 進学に重点を置く単位制を導入） （・R13 高校募集停止）

(2) 併設型中高一貫教育校への単位制導入

対象校	年度	設置内容	再編の概要
佐野高校	R8	普通科	・進学に重点を置く単位制を導入
矢板東高校	R8	普通科	・進学に重点を置く単位制を導入

(3) 学校の統合等

対象校	年度	使用校地	設置学科	再編の概要	統合方式
宇都宮清陵高校	R9	宇都宮清陵高校	定時制普通科 通信制普通科	・全日制課程の募集停止 ・フレックス・ハイスクールへ再編	—
鹿沼南高校 鹿沼商工高校	R9	鹿沼商工高校	農業科、工業科 商業科、家庭科	・未来共創型専門高校（仮称）へ再編	一斉統合
今市高校 今市工業高校 日光明峰高校	R9	今市高校	総合学科	・系列の見直し	段階統合
栃木農業高校 栃木工業高校 栃木商業高校	R10	栃木商業高校	農業科、工業科 商業科	・未来共創型専門高校（仮称）へ再編	一斉統合
真岡北陵高校 真岡工業高校	R11	真岡工業高校	農業科、工業科 商業科	・未来共創型専門高校（仮称）へ再編	一斉統合
那須拓陽高校 那須清峰高校	R11	那須清峰高校	農業科、工業科 商業科、家庭科	・未来共創型専門高校（仮称）へ再編	一斉統合

(4) 規模の特例（特例校）

対象校	年度	設置学科	再編の概要
益子芳星高校	R6	普通科	・3学級特例校、多様な学びに重点を置く単位制を導入 ・R8 福祉コースを導入
馬頭高校	R6	普通科、水産科	・2学級特例校（普通科を1学級減）
黒羽高校	R6	普通科	・2学級特例校
那須高校	R6	普通科、リゾート観光科	・2学級特例校（普通科を1学級減）

(5) 学科の改編・募集停止（閉科）

対象校	年度	現在の設置学科	再編の概要
矢板高校	R8	機械科、電子科	・工業に関する学科1学級に改編 ・コース制の導入等

2 定時制高校・通信制高校の再編

(1) フレックス・ハイスクールの設置

設置場所	年度	設置内容	再編の概要
県央地域	R9	定時制 普通科（午前部・午後部）	・宇都宮清陵高校（全日制課程）を再編 ・R11 宇都宮高校の定員の一部（470 人）を移設
		通信制 普通科	
県北地域	R11	定時制 普通科（午前部・午後部）	・新設（那須拓陽高校の校舎を使用） ・宇都宮高校の定員の一部（330 人）を移設
		通信制 普通科	

(2) 定時制課程の統合

対象校	年度	再編の概要
宇都宮工業高校 宇都宮商業高校	R9	・定時制の募集停止 ・県央地域のフレックス・ハイスクールに統合
大田原東高校 矢板東高校	R11	・定時制の募集停止 ・県北地域のフレックス・ハイスクールに統合

(3) 通信制課程の移設（再掲）

対象校	年度	再編の概要
宇都宮高校	R11	・R10 末に通信制を閉課程 ・県央、県北のフレックス・ハイスクールへ移設

(4) 昼間定時制への再編

対象校	年度	再編の概要
鹿沼商工高校	R9	・夕夜間定時制を昼間定時制に再編 ・鹿沼南高校の校舎を使用